

基本理念

学生の自主性を尊重した教育方針を採用したことで知られる初代総長木下廣次は、本学創立後最初の入学宣誓式において、「大学学生に在りては自重自敬を旨とし以て自立独立を期せざるべからず」と述べ、大学人の持つべき自主性の意義を説きました。この自主性を重んじる精神は、京都大学が大切にする「自由の学風」として今日まで承継されています。



— 京都大学の基本理念 —

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多元的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

【研究】

1. 京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。
2. 京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。

【教育】

3. 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
4. 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

【社会との関係】

5. 京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。
6. 京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

【運営】

7. 京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。
8. 京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。

— 京都大学の教職員像 —

京都大学の教職員は、京都大学の基本理念の下に、その将来像の実現にむけて、教育、研究、支援業務、大学・部局の運営のそれぞれにおいて自らの使命を自覚し、その職責の遂行に全力を尽くす。

教職員は、最善の努力を傾けて、教育・研究の双方において能う限りの高い水準を目指す。学問の自由は、これを遂行するための最も基本的な要件であり、社会規範や倫理に十分な配慮を払いつつ、教育・研究のすべての場において尊重される。

教育は、学術・文化の継承と個々の学生の能力開発・人格育成の営みであり、その実施において教職員は、性、民族、宗教などによる差別をしてはならない。研究は、学術・文化の発展と人類共有の知的資産の蓄積に資すべき営みであり、その推進において教職員は、高い倫理性と清廉性を保持しなければならない。

教育・研究を支援し、大学・部局を運営していく業務は、その持続的発展のために極めて重要である。教職員は、大学が社会的存在であることを認識し、高次の専門的能力と総合的視野をもってその職責を全うできるよう常に自己研鑽に努め、教育・研究基盤の充実、大学・部局の円滑な運営と発展に寄与する。

ご挨拶

京都大学は1897(明治30)年、社会における科学・技術の役割の急速な拡大を背景として、創造的な研究を通して人材を育成するというフンボルト理念の下に、我が国で2校目の帝国大学として創立されました。爾来、京都大学は、自由で創造的研究を尊び、新たな知的価値の創出によって「地球社会の調和ある共存に貢献すること」を基本理念として、アジア諸国の中で最多のノーベル賞やフィールズ賞の受賞者を輩出するなど、我が国を代表する研究型大学として歩んできました。

本学の教育の伝統は、自らに課題を課し自学自習によりその解決に向け努力することを促し、学生の創造的精神の涵養をはかることにあります。その前提となるのは、確実な科学的知識と幅広い豊かな人間的素養であり、国際高等教育院では、入学した全ての学生に全学共通教育を課し、健全な知的市民としての成長を求めています。

2021年6月に、基本方針「世界に輝く研究大学を目指して」を策定し、(1) 教育と学生支援、(2) 教員の研究活動支援、(3) 業務運営体制の改善、(4) 施設、(5) 組織運営、(6) 基金活動、の各課題への取組について本学の方性を示しました。これは、2017年の指定国立大学法人の指定にあたりまとめた将来構想の具体化に向けたものです。世界に伍する研究大学を目指し、新時代の教育・研究・運営のための機能的インフラ整備も着実に実行していく予定です。

この「京都大学概要」は、本学の理念・方針・運営体制等の基本的な情報から、優れた人材を育成するための教育、真理を探究するための研究、多様で多岐にわたる社会貢献、並びに国際化や機能強化のための大学改革など、本学が力を入れて推進している現状をわかりやすく紹介しています。また、京都大学Webサイトでは、大学の最新情報をお届けしています。

本冊子が皆様に京都大学をご理解いただく一助となれば幸いです。

2026(令和8)年7月
京都大学総長

漆 長博